

大いなる飛躍へ

 JA上川中央



稲刈り始まる!!

2013
NO.67

10

発行・上川中央農業協同組合
愛別町本町125
Tel(01658)6-5311
URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>
編集・営農振興課

日頃のご愛顧に感謝を込めて…

組合員大感謝祭開催!!

上川地区は8月24日、愛別地区は8月30日にそれぞれ開催しました。

上川地区では大雨に見舞われ予定を一部変更しましたが、日頃JA事業をご愛顧いただいている皆様への感謝を込めて、もちまき（もちの配布）やじゃんけん大会、お楽しみ抽選会（愛別地区）などのレクリエーションに来場者は楽しいひとときを過ごしていました。

更に焼肉と焼きそば、そばにきのこ汁が無料で振る舞われました。

今年もJA北海道厚生連の健康相談や顧問税理士である小城氏のバンド演奏（いずれも上川地区）などの協力をいただき、両地区とも多くの組合員の皆さんに参加いただきました。

来年も実施予定ですので、更に多くの組合員さんのご来場をお待ちしております。



第44回上川地区



お菓子配布



もぎたて市



小城氏のバンド「V-GOLD」



じゃんけん大会

第5回愛別地区



じゃんけん大会



もちまき

お楽しみ抽選会



愛別産新そば配布



おいしい!





愛別きのこで皆様をおもてなし! きのこの里フェスティバル

9月8日、愛別ダムきのこの里広場で、あいべつきのこの里フェスティバルが行われ、当JAも協力しました。

27回目を数える今年も町内外から多くの来場者でにぎわい、ダンスの演技や牛肉ときのこのバーベキューなどがありました。

生産者の協力を受けて、「採ったまんま」のきのこや生鮮野菜の販売にとどまらず、きのこがふんだんに入った「きのこのカレー」などの販売や、JA青年部・女性部による愛別産ななつぼしを釜で一気に炊きあげた「百姓一揆炊き」を販売しました。

雨が心配されましたが青空に恵まれ、秋の初めにおいしい愛別の味覚を提供することができました。



食欲の秋、きのこことステーキはいかが? 旭川食べマルシェに参加!!

9月14、16日、旭川市買物公園から常盤公園にかけて旭川食べマルシェが開催されました。この行事は道内外の特産品などを販売しているもので、3日間で延べ80万人以上が訪れる規模の大きなイベントです。

当JAからはきのこの詰め合わせときのこ汁を、また上川からプリンや大雪高原牛のサイコロステーキを販売しました。

3日間ともあいにくの雨が降る中でしたが、毎年販売しているきのこの販売やきのこ汁を楽しむに訪れてくれるお客様もあり、きのこ汁のおいしさは着実に浸透していると実感しました。サイコロステーキも時折行列ができていました。今後もイベントを通じて、販売促進につなげていきます。



大株舞茸に大興奮!!

コープさっぽろ産直交流会開催

8月24日、愛別・上川町内でコープさっぽろ産直交流会が行われ、旭川・留萌から約90名が参加しました。

この交流会は、生協で販売している「大雪高原牛」や「愛別きのこ」を通して生産者と消費者の相互理解と交流を図ることを目的に実施しています。

当日は(有)グリーンサポート(旭ヶ丘地区)での大雪高原牛の見学やパンチコーンについての説明、大株舞茸の収穫体験を行いました。

あいにくの雨となりましたが、生産者・参加者共に楽しい時間を過ごすことが出来ました。



11月の旭川にも参戦 食べる・たいせつフェスティバルに参加!

8月31日、スポーツ交流施設つどいむ(札幌市)でコープさっぽろが主催した「食べる・たいせつフェスティバル2013 in 札幌」に参加し、コープさっぽろ産直牛肉である上川町大雪高原牛をPRしました。

会場では食に関わることを見て体験することをテーマに、各団体機関の出店や各種体験コーナーで大いに盛り上がりました。

当JAからは大雪高原牛のサイコロステーキを試食提供し、地域との交流と安心・安全を来場者に伝えることができました。

なお、このフェスティバルは全道各地で開催される予定で、11月10日の旭川地場産業振興センターでの開催にも参加します。ぜひお越しください。



大学・短大・専門学校生大歓迎

JAグループ職員・社員養成学校

JAカレッジ

- 60名 ●1カ年、全寮制 ●高校卒(見込)、21歳未満
- 大学、短大・専門学校卒(見込)、24歳未満
- 試験日:12月10日・11日・12日 ●願書受付:9月9日~11月11日

男女共学

JA、JA関連会社へ就職

お問い合わせ
資料請求

一般財団法人
北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町43-1
(JAカレッジ) ☎ 0120-918-417
JAカレッジ 検索

今月の顔

ますむら しょう
増村 涼さん
 (菊水地区)

青木牧場勤務

○生年月日	平成元年 11 月 18 日
○出身地	熊本県熊本市
○趣味	読書
○家族構成	なし (青木さん宅で居候中)



○農業をしようと思ったきっかけ

大学生のときに青木さんのご家族と知り合って青木牧場のことを知り、大学卒業前に牧場で1週間研修しました。別の会社から内定をもらっていましたが、元々農業に関心があったこともあり、研修を受けるうちに牧場勤務の方が自分に合っていると思いました。

○農業をしてみて思ったこと

学校では農業に関しては一切勉強してこなかったもので、簡単でのんびりしたイメージくらいしかありませんでしたが、実際に働くと休みが少なく忙しく感じています。ただ、牧場にいる牛はのんびりしていてかわいいです。



○本人から一言

青木牧場では中国人実習生を受け入れており、中国語を話せるよう勉強中です。農業については効率的に経営できるように、技術や知識を身につけていきたいと思っています。

“もしもの未来”から見えてくる

やっぱり大切だね、日本の豊かな食と農 8

田畑がこれ以上減ってしまったら…

ふるさとの景色が一変!?



心いやされる里山の風景が失われてしまうかも

多様な生き物をはぐくむ自然と、人の暮らしが調和した、日本ならではの美しい環境、それが里山です。田んぼやため池、放牧地や雑木林など、人と生き物が共存する、豊かな農山漁村の原風景です。

2010年に日本で開催された生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) で、日本は「SATOYAMAイニシアティブ」を提唱。農山漁村のさまざまな価値と、それを支える地域社会の重要性を訴えました。

ところがTPPの影響で、この里山が失われかねないのです。政府試算では、たとえば米の国内生産量は32%減少するとされ、もしもそうなった場合、里山の生態系が豊かに残る中山間地域が荒れかねません。農家がそこに暮らし、農業を営みながら雑木林の手入れなどをすることで、里山は維持されているのです。

日本が提唱した、里山の価値を守り育てる考え方。その意味を、わたしたちはもう一度、見つめ直したいものです。

(監修/東京大学大学院教授 鈴木宣弘)

米生産の先進地域から学ぶ!

愛別町米麦生産振興協議会・JA青年部愛別支部 合同視察研修

8月26日、初めてとなる合同視察研修があり、合わせて14名の会員・部員が参加しました。

視察先は上川農業試験場(比布町)、国営農地再編整備事業(妹背牛地区)、JAピンネ(新十津川町)の3か所、稲の栽培管理方法や農地の再編整備について担当の方

からの説明や圃場の見学を通して、実際に目でふれて自分の技術等を再確認しました。

JAピンネでは、ゆめびりか生産部会の方々と意見交換し、今後情報交換等ができるよう連携を図りたいとの声もありました。

また、27日はJA青年部のみで、丸果札幌青果(株)で市場の見学をし、その後現在の市場の概

要やこれから生産者に取り組んで頂きたい作物等の要望などの意見交換が行われました。両日ともに大変有意義な視察研修となりました。



愛別きのこ、全国の空を飛ぶ!? エア・ドウ機内誌取材

8月5日、エア・ドウ機内誌「Lapport(ラポラ)」の編集担当者が愛別きのこの取材のため来訪されました。(農)タッグ(豊里地区)と山口芳一さん(金富地区)の工場を訪問し、(農)タッグでは舞茸の植菌から培養、収穫、包装の様子を、山口さんでは「えぞゆきのした」の収穫から包装の様子を写真撮影も交えながら話を聞きました。

取材にあたり担当ライターより、「北海道らしい秋の味覚を特集するのに、愛別きのこのこがぴったりだと思い選んだ。道外の人に愛別きのこの魅力を伝えられるような記事を書きたい」と明るく話していました。

この取材の様子は、10月発行の「Lapport」10月号に掲載される予定です。エア・ドウ路線に搭乗する際はぜひご覧下さい。



命に感謝… 畜魂祭執り行われる



9月20日、上川町内にある育苗施設横で畜魂祭がおこなわれ、新井組合長をはじめ上川町内で酪農・畜産業に従事する方が参席しました。

神主の方を招いて奉納が行われ、家畜への黙祷と供養をしました。私たちが命を支えられて生活していることを再認識しました。



目の前にある出荷を控えて… 出荷規格検討会・現地研修会

かぼちゃ出荷規格検討会

9月2日、上川支所青果集荷場で南瓜出荷規格検討会が開催されました。

当JAの販売先である大果大阪青果(株)野菜部(本社・大阪市)の山本さんを招き、出荷等級・規格について、各規格品を例示していただきながら説明を受けました。

出荷にあたり山本さんは、「今年は府県産地の出荷も順調に終盤を迎え、これからは北海道産が主な販売になる。特に栗味かぼちゃの産地は、JA上川中央だけで固定客がいるので、品質を統一して出荷をお願いしたい」と話していました。



胡瓜現地研修会

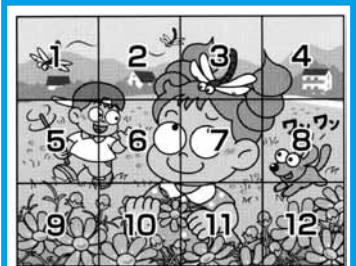
9月3日、胡瓜現地研修会が伏古生産組合(厚生地区)の圃場で行われ、生産者12名が参加しました。今年度4回目となったこの研修会は、前回に引き続き埼玉県原種育成会の栗田さんを講師に迎えました。

栗田さんは「9月に入り朝晩が冷え込む日が増えるため、ハウス内の保温対策をしないと病気の原因になる」と話し、収穫期の保温対策を始め、整枝や摘果、病害虫対策について指導していただきました。さらに、来年度に向けての土壌生成についても伝授していただきました。



まちがいさがし

右のイラストには左のイラストと違う部分があります。間違っている部分を探しましょう。



先月の答え

- 2…赤トロンボがない
- 4…家の形が違う
- 5…棒の長さが違う
- 7…眉毛の形が違う
- 12…コスモスが増えている

農作業風景

WCS 収穫・梱包



松浦 雅史さん (豊里地区) 圃場で

ライ麦収穫



(有)グリーンサポート (旭ヶ丘地区)

そば収穫



佐橋 和也さん
(中央地区)

南瓜収穫



中田 康之さん (菊水地区)

馬鈴薯チヨッパー作業



上川町馬鈴しょ生産組合 (菊水地区)

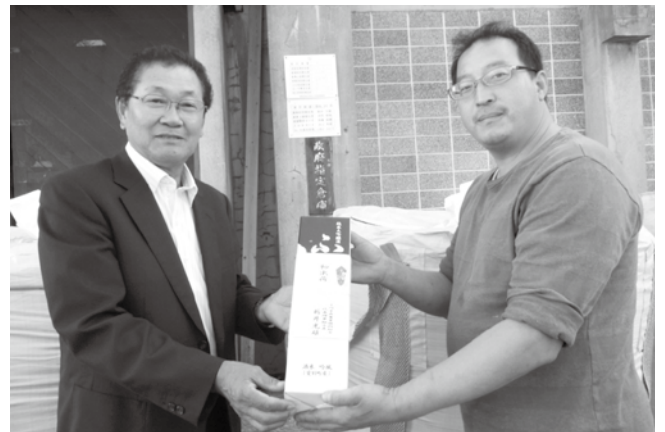
今年もおいしい新米ができました 25年産米出荷始まる

25年産米の収穫が各地で始まり、その出荷が愛別町内では9月9日、上川町内では17日から始まりました。今年、雪解けの遅れから田植え時期が例年より大きく遅れましたが、6～8月に好天が続いたことで生育が進み、早い人では例年より7日程度早い収穫となりました。今年の米について生産者の1人は、「夏に暑い日が続いて収穫時期は昨年より早まった。最近、雨が多く、圃場がぬかるんで作業はしづらいが、作柄はやや良い出来だ」と話していました。

秋の訪れに新米を召し上がって下さい。



中田 康之さん (菊水地区)



小山 昌彦さん (金富地区)

基礎給付日額の選択幅が広がります

今年9月1日から、労災保険特別加入者が支払う「給付基礎日額」の選択幅が下表の通り広がります。

既に特別加入している方は来年度（平成26年度）から変更後の給付基礎日額を選択できます。変更を希望する場合は、年度末（平成26年3月18日～3月31日）または労働保険の年度更新期間（平成26年6月1日～7月10日）に手続きを行って下さい。

新規に加入する方は、加入時に全ての給付基礎日額を選択できます。

■給付基礎日額（平成25年9月1日～）

3,500円	4,000円	5,000円	6,000円	今回追加額 22,000円 24,000円 25,000円
7,000円	8,000円	9,000円	10,000円	
12,000円	14,000円	16,000円	18,000円	
20,000円				

参考：労災保険と特別加入者について

労災保険は労働者の業務または通勤による災害に対して保険給付する制度ですが、労働者以外でも特別に任意加入を認める「特別加入制度」があります。対象者は中小企業を経営する「中小企業主」、労働者を使用せずに事業を行ういわゆる「一人親方」などです。

特別加入者に対する保険給付額は、加入者本人が「給付基礎日額」を選択し、それに所定の保険料率をかけて算定された保険料を支払うことになっています。

※詳細は北海道労働局、旭川労働基準監督署（電話：0166-35-5901）にお問い合わせ下さい。

するーライフ

稚内に宿を取り、翌日のユジノサハリンスク行きフェリーに備えた。当日の朝食を終えると、何やら慌ただしくなっていた。暴風警報で、フェリー欠航となった。その判断が間違いではないことは次第に理解されてきた。稚内の町にも強い風が吹き荒れた。しかし、そんな出来事はなかったかのように、翌朝は風の平和な海があった。5時間半の船旅である。稚内港を離れてコルサコフ（旧大泊）港へフェリーは着岸した。コルサコフは旧都市の表現が似合う、どこか寂しい港だった。下船して事務所まで乗ったバスの排気音、長い入国審査の待ち時間、好印象を抱くには程遠いものであった。樺太として長きに亘った日本の歴史は、消えてしまっていた。入国審査を終え、迎いのバスでユジノサハリンスク（旧豊原）の宿を目指した。コルサコフの海岸線には、漁師の集落と思しき家々が点在した。アップダウンの激しい道路を1時間ほど走った。中心部へ近づくと、街の規模が次第次第に大きくなる。道路幅も広くなり、骨を休める宿にようやく辿り着いた。丸1日を費やしたユジノサハリンスクへの行程であった。遅いディナーで初めてロシア料理を口にしたが、意外と親しみやすいものであった。それは、その後のどの料理でも抱いた感想である。ウクライナ地方、また何々地方の家庭料理と味わったが、私の胃袋には量が多かった。しかし、コース料理で登場するスープは絶品である。豆をベースにしたもの、馬鈴薯をベースにしたもの、トマトをベースにしたもの、ゆっくりとしたしみみしい一品であった。

翌朝から、宗谷線沿いの各市が持ち寄った農産物・加工品を販売する「道北物産展」が始まった。悲しいかな、我が町の出品することはできなかった。会場のショッピングモールは、開始前から盛り上がり、スイカ、メロンそして野菜のブースに人の列が出来上ってしまった。「オープニングセレモニーが終わってからだ」とロシア語で注意しても、無駄だっただろう。正面玄関で行われたセレモニーにも、大きな人の垣根が出来上がった。交流を祝う北海道とサハリンの代表がマイクを握った。薦被（こもかぶ）りの日本酒が振る舞われた。ショッピングモールの1階と3階が日本色で彩られた。さあこれが、強い絆へと発展していけるのかは、今後のとらえ方で決まるのであろう。最短で45キロの稚内とサハリン突端・旧能登呂岬を結ぶ航路はない。湾岸を大きく蛇行してコルサコフの港へ向かうルートなのだ。スーパーを覗けば世界各地からの物流に、驚かされる。物産展を覗いた人々は、日本の安全を求めて、また健康志向の商品を求めて並ぶのが、手に取るように分かる。消費が拡大する都市である。しかし、政治体制も文化も異なる、近くて遠い隣国でもあるのだ。歴史を再確認する目的で、改めて巨大なレーニン像が駅前広場に建てられている。

朝明けが遅く、霧が立ち込める通りをホテルの窓辺から眺めて、大きなため息をついた。

（写真：ユジノサハリンスク駅前のレーニン像）
※このコラムは連載です。





■ 職場からこんにちは！



信用担当理事
兼 金融共済課長
松嶋光章

いろいろまかせて、かしこく使う!!
身近なマネー・アドバイザー

組合員・地域の皆様に信頼される身近な金融機関として、お客様のニーズに答える各種貯金をはじめ公共料金等の振込、年金等の受取、資金のご融資、暮らしの保障などの業務を行っておりますので、お気軽にご相談下さいますよう職員一同お待ちしております。



課長補佐
高橋勝彦



調査役
岡田健



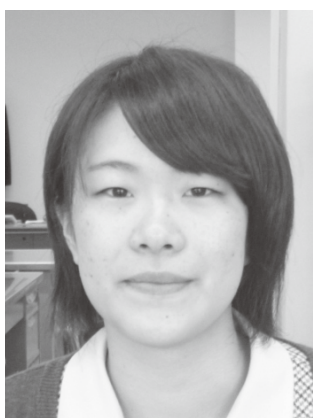
係長
牧野知晴



係
古屋睦子



係
塚本彩香



係
菖蒲悠



(準)
伊藤しのぶ



土壌改良・地力増進経費の一部を助成します

地域環境型農業が持つ多面的効果を促進することを目的に、以下の通り支援します。

なお、1年間あたりの予算額を超過した場合は割合の調整をいたします。

■制度内容

区 分	支 援 額
稲わら収集	10aあたり400円以内
堆肥助成	購入額の10%以内

1. 事業実施者は組合員であって次の要件を全て満たしている方です。
 - (1) 愛別堆肥センター又は愛別、上川地区畜産農家より購入した堆肥を使用していること。
 - (2) 原則、町内(愛別・上川)の田・畑に施用していること。
 - (3) 堆肥が施用された田・畑で生産された農産物を販売していること。

2. 基準施用量は北海道施肥ガイドを基準とし次の各号に定めによります。
 - (1) 水稻、麦類、てんさい、ばれいしょ、豆類、そば、ひまわり、とうもろこし(サイレージ用)及び飼料作物の基準施肥量は10a当たり1t
 - (2) 牧草、露地野菜、果実及び花卉の基準施用量は10a当たり2t
 - (3) 施設野菜の基準施用量は10a当たり4t

3. 助成対象経費は事業年度の4月から積雪前までの堆肥購入に係る経費とし、加算される運賃及び消費税額を含み、自己引取りによる割引分については除きます。ただし営農上必要と認める場合は、3月中の購入に係る経費も当該事業の補助対象とします。

4. 事業期間は平成25年から平成27年までの3ヵ年です。

お問い合わせ先

本所 営農振興課
6-5315
支所
2-1113

組合員のうごき

(平成25年8月22日現在)

正組合員戸数	398戸
組合員数	2,649名
うち正組合員数	618名
うち正団体数	36団体
うち准組合員数	2,031名
うち准団体数	73団体

- 27日 第8回定例理事会
- 25日 帯広畜産大学での施設視察(ヒット)
- 22日 消費拡大フェア(札幌市場)
- 20日 平成25年度上川管内新規就農者農業講座(ヒット・堆肥センター)
- 14日 北の恵み食マルシェ2013(旭川)
- 13日 第6回経営指導班会議
- 11日 第3回JA上川中央ブランド推進専門部会
- 8日 第27回あいべつきのこの里フェア
- 3日 企画会議
- 2日 南爪出荷規格検討会(上川)

よろしくお願ひ致します

お世話になりました

久米 明美

生活課 愛別店舗係

(9月10日付)



上川店舗係
豊川 陽子
(9月2日付)



愛別店舗係
熱海 恵美
(9月26日付)



愛別給油係
橋本 宏希
(9月4日付)

今月号の表紙

稲刈り始まる

尾崎俊雄さん(金富地区)

JA上川中央公式HPがリニューアルしています。



HPでは愛別・上川の話題を随時発信中！
詳しくは
HP：<http://www.ja-kamikawa.or.jp/>
または「JA上川中央」で検索!!

営業日・営業時間変更のお知らせ

- Aコープ(あいべつ店・かみかわ店)
平日・土曜日 9:00~18:00
祭日 9:00~17:30
期間：11月1日~平成26年4月30日
- 資材店舗(本所・支所)・農機センター
土曜日 休業
期間：11月1日~平成26年3月1日
- ホクレン愛別給油所
平日・土曜日 8:00~18:00
日曜・祭日 9:00~17:00
- ホクレン上川給油所
平日・土曜日 8:00~18:30
日曜・祭日 8:00~18:00
期間：11月1日~平成26年3月31日